

街の歴史資源の保全・復元・再活用

□ 既存する歴史的建造物の再活用

既存する辻番所や、足軽宿などの歴史的建造物の歴史性を継承していくため、新たな用途へとコンバージョンしていき、人々が利用することを今後の保全の可能性を探っていく。そのため、対象地区内の歴史的建造物に対し、以下の3つの提案を行う。

1. 市文化財となる辻番所の増設館へのコンバージョン

まず、既存する辻番所対向に対となる辻番所を復元することで、辻番所としてのアイデンティティを明確にする。さらに周辺の空き地、建造物と複合的に改修を行い、観光施設のコアとしてこの地区の科徴である「足軽文化の歴史」を伝える博物館として活用していく。



復元した路地から辻番所への景観

2. 市文化財である足軽宿の足軽生活体験施設へのコンバージョン

既存する2棟の足軽宿館について保全・復元を行い、観光に訪れた人々がこれらの施設での「足軽生活の体験」を通じて、芹川地区をより深く理解できるように新たな観光資源として活用していく。具体的には、1棟は江戸時代の食文化に習った伝統的な食事を提供する足軽食堂として活用し、もう1棟は内部を当時の姿に完全に復元・再現を行い、内部を見学できる生活体験施設として活用していく。



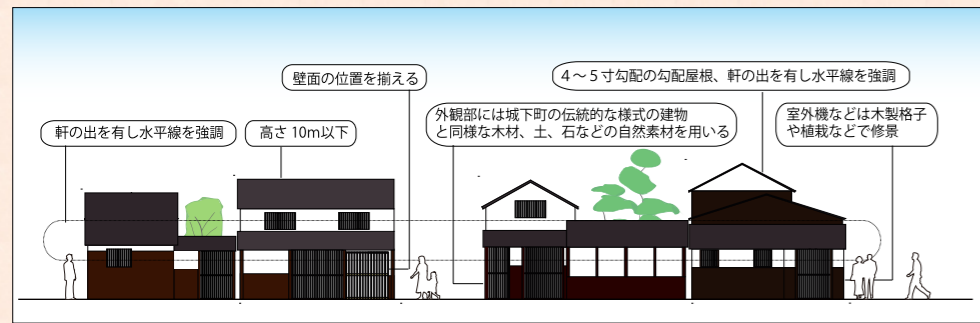
足軽宿での光景

3. 老朽化の進む歴史的建造物の宿泊施設へのコンバージョン

地区内に数多く既存する歴史的建造物については、材料や間取りなどを十分に配慮した上で改修・移築を行い、街並みを連続させていくと共に、古き良き屋敷での生活・寝泊りを体験でき、歴史を満喫できる宿泊施設として活用していく。

□ デザインコードによる歴史的街並みの再現

紫のエリアでは、デザインコードを設け、継承されてきた歴史を体験できる街並みを統一していく。そして観光客がこの地区を訪れたときに、足軽宿がまちをかまていた当時の風情を再現したこのような町並みや、どんつき・食い違いなどこの地区独特な町割りを体験することで歴史を味わえるような空間を創出していく。



フリンジ駐車場と自動車交通規制

□ 地区内の新たな交通体系の創出

地区内において自動車の通過規制を行う。オレンジの矢印の方向のみ通行が可能であり、それ以外においては緊急車両を除いて原則的に通行不可とする。そして地区内では、建物前・敷地内駐車場を設けることを規制し、自動車の駐留に関しては地区の茶色で示されるフリンジ部分の駐車場のみの利用する。これにより、都立などに必要な自動車のみが利用可能で、地区内の大部分は歩行者優先の空間となることで、安心して子どもやお年寄りが歩くことができる。

周辺地域の核としてのコミュニティセンター

□ 観光客と地区内・周辺地区住民からなるコミュニティを形成

地区に既存する歴史的建造物や空き地・空き家を活用した多様なコミュニティ施設を整備することで、観光客・地区内住民・周辺地区住民の交流を創出していく。

1. 観光客と住民の交流を図る地区センター

ここでは、まちづくり協議会やまちづくり会社の拠点として地域核としての機能を担うと共に、建物前・敷地内に足湯を設けた小広場や、地区内の観光案内所など、観光客と住民の交流を図る施設として整備する。具体的には、住民による観光案内所や歴史教室などのイベントの開催、足湯での談笑や地区の案内によって住民と観光客の新たな関係が生まれていく。

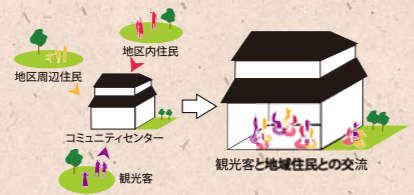
2. 広域的な周辺地域の核となる生活支援センター

ここでは、周辺地区に生活支援センターが不足していることから、広域的な地域の核となる施設を整備を行う。これにより、特に地区西部の生活利便性の改善が図られ、対象地区のみならず周辺の生活環境の向上を行うことができる。具体的には以下の4施設を地区内に整備する。

- A 多機能集約型センター
会議室などを設けた。集会や小規模なイベント、各種教室・ワークショップなど多岐に渡り利用可能な施設を整備する。
- B 育児支援センター
幼児を抱える若い世代の地区内入居の推進をサポートする託児サービスを行う。
- C 図書センター
住居が木や障子を持ち寄り、住民発信のコミュニティ図書館をつくる。
- D 学習センター
高齢者の生涯学習の支援や、近隣教育機関と連携して、子どもたちへの歴史教育などを行う。



地区センターでの交流



観光客と地域住民との交流

芹橋大路とあしがる市

□ 足軽の歴史を見て・食べて・体感して・学ぶ、芹橋地区の象徴

芹橋地区の中心として、四番町スクエアから繋がる道路の地幅を行い、格式のある街並みと通りを実現する芹橋大路を整備し、また、その大路と芹川との交差点となる空間において、観光の賑わいの場としてあしがる市を創出する。

1. 芹橋大路

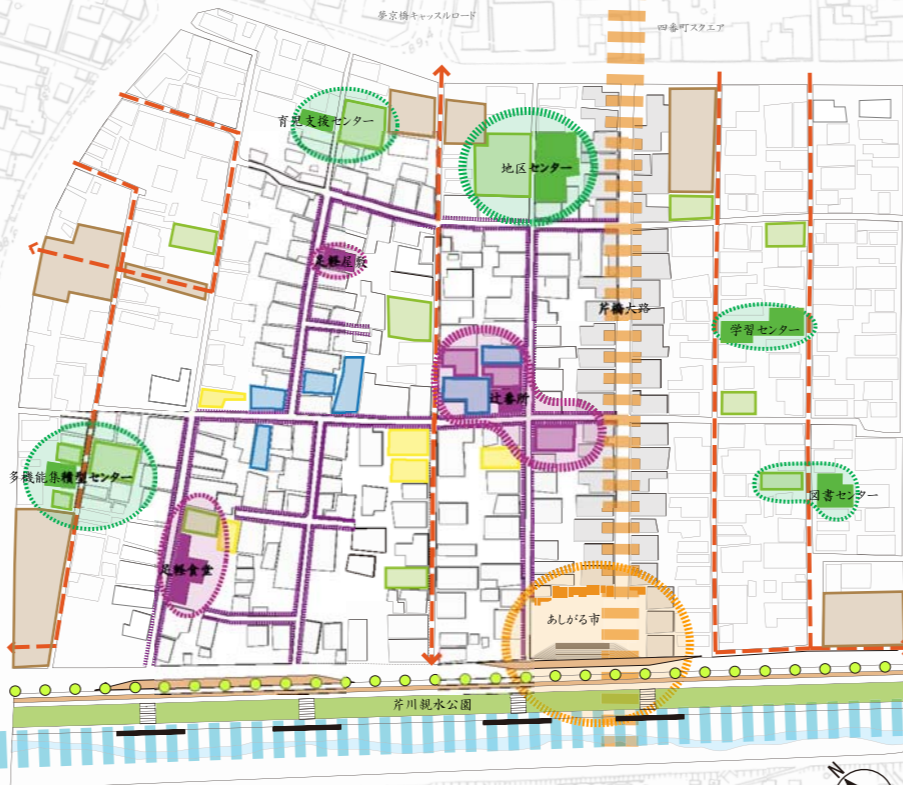
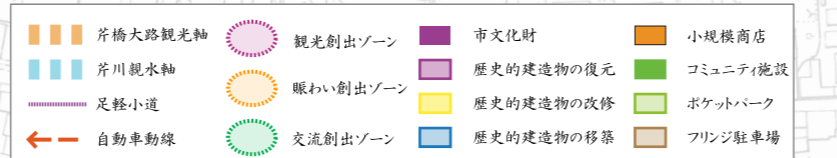
水路の整備と道路の地幅工事を行い、格式高い武家街道を再現する。剣術・弓術・茶室などの歴史文化体験型施設や映画村の要素を取り入れた彦根の新しい観光資源として、彦根城、夢京橋キャッスルロード、四番町スクエアから繋 げることで、地域全体の観光を更に発展させていく。

2. あしがる市

観光客が芹橋地区を通過しつづれる賑わいの空間として、せんべい・お団子・お茶などの食べ歩きができる商品を扱う出店を集めて、人の集まり、賑わい、活気ある空間を創出する。



あしがる市へと続く賑わいの光景



地区内の防災機能の向上

□ 街並みを保存するための地区内の防災機能の向上

芹橋地区では、足軽の街並みを残しながらも、その密集性から、防災面での課題を多く抱えている。また、一般的には建物の建替えの際に敷地と前面道路の間に一定距離の空地を設けるため、地区の更新に応じてその貴重な街並みを失いつつある。これに対し、以下の3点の提案を行うことで、地区の歴史性と防災性の両立を図る。

1. 緊急車両の進入

芹橋地区の中心を貫く芹橋大路において、緊急車両の侵入を可能とする。さらに芹橋市場において軽回可能となるため、災害時により精密な対応が可能となる。



避難路としての役割を果たす足軽小道

2. 避難道の整備

観光客の目を楽しませる足軽小道の外壁を避難道として整備。内部では現在の技術を用い、災害時にも安全に通行できる耐震・耐火性を備える。

3. 消防水利の設置

地区各所に整備するポケットパークには、消防水利を設置し、地区全体に渡ってカバーできるように整備する。また、ポケットパーク自体も火災時の延焼防止の役割を果たしていく。

芹川親水公園の整備による熱い空間の創出

□ 観光客が最後に行き着く新たな眺望点

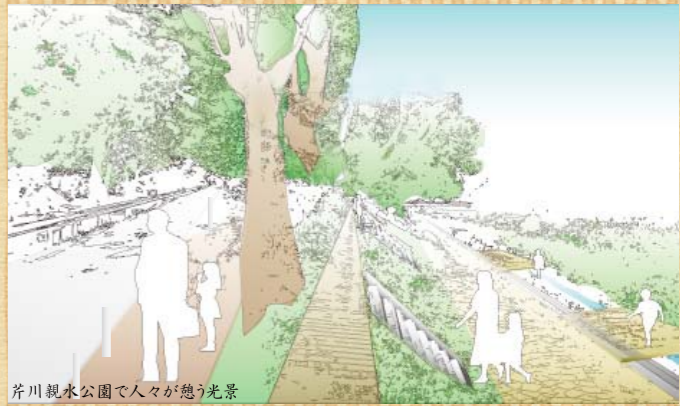
芹川親水公園の拠点として、観光客が芹橋地区・彦根城への眺望を楽しみながら憩うことのできる親水空間を整備する。また、現在芹川の堤防沿いの自動車の流れを抑制するための対策を行う。

1. 芹川親水公園を整備し、魅力ある熱い空間を創出

芹川周辺において堤防道路の拡張による歩行者専用道路の設置を行う。また川岸を下方に向かうにつれて多段にウッドデッキ、ベンチなどを設置することで観光客・地域住民が水と緑に親しめる空間を整備する。大ケヤキ沿いの遊歩、芹川堤での休憩、遠くに見える彦根城への眺望など緩やかな時間が流れる空間として地域から愛される公園として利用されていく。

2. 交通静穏化による芹川と芹橋地区のつながりの創出

芹川の堤防上の道路で、歴史的街並みの形成地区、および芹橋大路から繋がる空間において、自動車の速度を抑制する目的で狭さを設置する。これにより歩行者の芹川親水公園への行きやすさを向上すると共に、十分な安全性が確保でき、彦根城への眺望をゆっくりと楽しむことのできる景観スポットとして多くの人々が訪れ憩う空間となっていく。



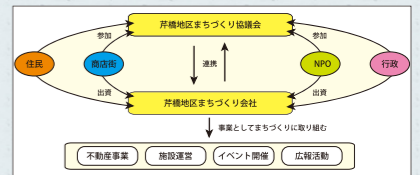
芹川親水公園で人々が憩う光景



まちをかたちづかっていく、組織の形成

□ まちづくり協議会とまちづくり会社

まちをかたちづかっていく中で、初期の芹橋大路・芹川親水公園の整備を契機として地域が住民・商店街・NPO・行政の連携により、今後の地域のあり方や取り組みについて協議し合う「芹橋まちづくり協議会」を設立する。ここでは、まちづくりのハード/ソフトの両面について議論を交わし、観光と生活の両立を目指していく。また、その後に協議会での決定事項を具体的な事業として計画・実施する「芹橋まちづくり会社」を地域の住民の同意により設立し、相互に連携することで地域にふさわしい整備を進めていく。



まちをかたちづかっていく、事業手法

□ まちづくり会社の役割

地域にふさわしいまちづくりを担っていくため、芹橋まちづくり会社では以下の4つの事業を主に行う。これらの連携により、観光と生活の両立を図り、歴史ある豊かな市街地を未来へと継承していく。

1. 不動産事業

歴史的建造物に空き家が多く、また、住んでいる人の高齢化が進んでいる中で、芹橋地区まちづくり会社がその土地や建物を買い取り、歴史的建造物の管理・運営を行うと共に、住民の住み替え支援を行っていく。

2. 施設運営

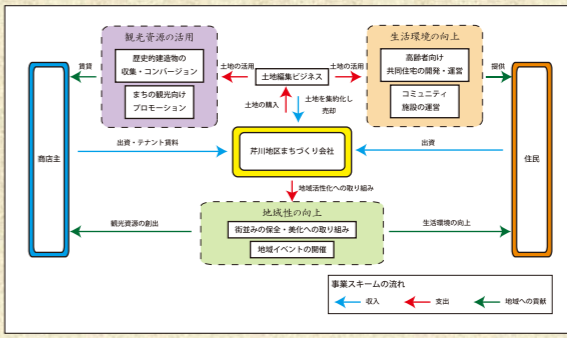
コミュニティ施設や足軽食堂、足湯などの施設の運営を行っていく。

3. イベント開催

あしがる市において、芹橋まちづくり会社が主体となり観光客と地区住民が交流できるイベントを開催する。

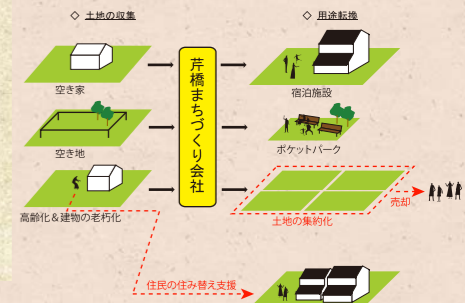
4. 広域活動

芹橋地区を訪れる観光客のために、コミュニティ施設や芹橋大路でまちの観光案内などを行う。



□ 不動産事業の概要

高齢化が進んでいる現状のままの芹橋地区では、今後一層空き地・空き家の増加することが予想でき、貴重な街並みを継承管理していくことは困難であるといえる。この課題に対し、芹橋まちづくり会社では不動産事業を通じて地域の転換を図っていく。特に、土地を収集することで細分化されてしまった狭小敷地を結合し、十分な生活環境を確保できる敷地としてまとめることで、若い世代の地区への流入を促していく。そのため、整備したポケットパークも、まとまった土地となった段階で地区への入居者に対して売却していく。



整備前



整備後

地区中央部が空地帯となっており、放水区域となっており、また、消防水利の数も少なくカバーできる範囲が少ない。

- 消防水利から半径 50m
- 既存の消火栓
- ポンプ車の放水区域
- 避難路としての足軽小道
- 緊急車両の通行可能な芹橋大路

道路の拡張により緊急車両が地区内に入ることができ、放水区域を大きく拡大することができる。空地部分についても避難路として十分な耐火・耐震性を持たせた足軽小道を整備することにより、川辺や河川など広い空地へと安全に避難することができるようになる。